

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 横浜国立大学教育学部附属鎌倉中学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注 1}

☒ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注 2} ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他 (例: 小中高一貫)

※注 1 義務教育学校を含む ※注 2 中等教育学校を含む

所在地 〒248-0005

神奈川県鎌倉市雪ノ下 3-5-10

E-mail kamachu@ynu.ac.jp

Website www.kamajhs.ynu.ac.jp

幼児児童生徒数 男子 261 名 女子 249 名 合計 510 名

幼児・児童・生徒の年齢 12 歳 ~ 15 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

下記①~③の活動成果を、校内発表会や校内常設展示、ユネスコ協会の活動報告会等を通して、全校生徒や保護者、地域の方に向けて発信した。また、今後の活動として、さらに隣接する附属小学校や地域との連携を深めていく予定である。

① 科学部の活動【環境・生物多様性・歴史・地域理解】

鎌倉の海岸 (由比ヶ浜・材木座海岸) で年 2 回ビーチコーミング (漂着物調査を行った。そのうち 1 回は、隣の鎌倉市立第二中と合同で行った。

採集した漂着物を、「生物・自然」「文化・歴史」「環境」の 3 つの観点から分類し、研究を進めた。調査結果については、部内で検討の上、校内発表会にて展示、および口頭発表を行った。

② 帰国生の活動【国際理解・伝統文化・地域理解】

本校に在籍する約 40 名の帰国生が、「鎌倉に観光に訪れた外国の方へのインタビュー」や「日本文化の体験活動（茶道・寺社めぐり）」などの活動を通して、海外から見た鎌倉の特徴や魅力について学習した。また、「海外生活体験発表会」を行い、帰国生一人ひとりが、自分の滞在していた国の文化や生活体験について発表したり、隣接する附属小学校の児童を対象に交流会を行ったりした。

③ 総合的な学習の時間【地域理解】

人との交流を中心にした実践的・体験的な学習活動を通して、情報活用やコミュニケーションに関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、社会や職業と自己とのかかわりについて理解を深め、自己の将来にかかわる問題を主体的に解決する能力と態度を育む目的で学習を行った。

・「インタビュー学習」（1年生）

地域の方をはじめとする様々な人との出会いや学びの中で、社会をたくましく生きる人について考える。

・「職場体験活動」（2年生）

職業学習を通して、自分が現在の社会で生きていく上で必要な力について考える。

・「自主研究」（3年生）

個人で探究するテーマを設定し、修学旅行や進路学習等を通して、今後の自分の生き方について考える。



① の写真（キャプション）



② の写真（キャプション）



③ の写真（キャプション）



③ の写真（キャプション）

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

■ 1. 環境	■ 2. エネルギー	■ 3. 防災	■ 4. 生物多様性
■ 5. 気候変動	■ 6. 国際理解、文化多様性	■ 7. 地域の伝統文化、文化遺産	■ 8. 人権・平和
■ 9. 健康・福祉	■ 10. 食育	■ 11. 持続可能な生産と消費	■ 12. 貧困
□ 13. エコパーク	□ 14. ジオパーク	□ 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
■ 16. ジェンダー平等	■ 17. その他(歴史、地域)		

■ 1. 批判的に考える力	■ 2. 未来像を予測して計画を立てる力
■ 3. 多面的、総合的に考える力	■ 4. コミュニケーションを行う力
■ 5. 他者と協力する態度	■ 6. つながりを尊重する態度
■ 7. 進んで参加する態度	
□ 8. その他(自由記入)	

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他（自由記述 帰国生の会）	

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ユネスコスクールとして全体計画を作成し、それに基づいて活動を計画している。

本校の重点教育活動として「総合的な学習の時間」の中で、生き方探究学習[LIFE]を行っている。

また、重点教育項目として「環境」と「国際理解」を定め、それぞれ科学部と帰国生の会で活動を行っている。

指導に関しては、学校評価（職員・生徒・保護者アンケート）を実施し、内容項目の結果を基に成果と課題、妥当性を検討し、改善に活かしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

学校で全体計画を作成、共有しており、ユネスコスクールの内容を職員に周知している。各分掌（道徳・総合・特活・生徒指導）での関連、各教科での内容項目の関連を整理している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校評価（職員・生徒・保護者アンケート）を実施し、内容項目の結果を基に成果と課題、妥当性を検討し、改善に活かしている。

その結果、生徒の ESD への認識は実質的には向上していることが明らかとなった。

課題は、保護者・生徒が ESD の理念や学校の具体的取り組みへの理解が、まだ十分ではないことである。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

活動成果の発表および内容は、以下の通りである。

- ①[LIFE]学習発表会：総合的な学習の時間で得られた成果を学校内外に向けて発信し、意見をもとに問題を主体的に考えた。
- ②文化活動発表会：科学部の研究成果や帰国生の会での活動内容を、全校生徒に向け発信し、環境問題や国際理解について理解を深めた。
- ③鎌倉ユネスコ協会 ESD パスポート活動実践報告会：実践報告をし、他校の取り組み事例を得ることができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

鎌倉ユネスコ協会、JICA、横浜国立大学、神奈川県ユネスコスクールネットワークと協働して企画を行ったりして、ネットワークを形成している。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

鎌倉ユネスコ協会 ESD パスポート活動実践報告会に参加した、横浜国立大学教育学部附属鎌倉小学校、鎌倉市立第一中学校、北鎌倉女子学園中学校高等学校、湘南学園中学校高等学校と、報告会にて実践の発表を行い、交流を行った。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

児童生徒：生き方探究学習における、ESD の視点に基づくテーマ設定を行えるようになった
教員、カリキュラム・教授法：ESD を意識した授業改善、および教育活動への反映
学校経営：ユネスコスクール（ESD）全体計画の作成、小中9年間を見通した学びを意識したカリキュラムデザイン

（3）平成30年度の活動計画（200～400字程度）

・総合的な学習の時間

人との交流を中心にした実践的・体験的な学習活動を通して、情報活用やコミュニケーションに関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、社会や職業と自己とのかかわりについて理解を深め、自己の将来にかかわる問題を主体的に解決する能力と態度を育む目的で学習を行い、内容をより充実した物へと改善していく。

・科学部

鎌倉の海岸（由比ヶ浜・材木座海岸）で年2回ビーチコーミング（漂着物調査を継続して行う。また、近隣の小中学校と合同で行っていくことも企画したい。採集した漂着物を、「生物・自然」「文化・歴史」「環境」の3つの観点から分類し、継続して、研究を進めていく。

・帰国生の会

海外から見た鎌倉の特徴や魅力について学習した結果を、「海外生活体験発表会」にて、自分の滞在していた国の文化や生活体験について発表したり、隣接する附属小学校の児童を対象に交流会を行う。一人ひとりが考える場としたい。

・教科

校内で行っている、各教科のカリキュラムマネジメントと絡め、ESD の視点も取り入れ、教科連携が行えるようにしたい。